

社会情報学科専門科目（令和3年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要	開放
基礎科目	40010		行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40020		情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
	40031		ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
	40040		統計学入門	②	30	1	後期	鈴木 久美		教養
人間社会と心理	40110		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 前期開講（8～9月）	教養
	40120		社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
			社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40170		社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40180		集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
			社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養	
		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅			
経済と経営分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	鈴木 久美		教養
			ファイナンス演習	2	30	2	前期	鈴木 久美		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	平野 智久	連続2時限の受講をもって1回の授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	高浜 快斗		教養
	40380		経営情報論	2	30	1・2	後期	高浜 快斗		
40391		企業経営論	2	30	1	後期	高浜 快斗			
		経営情報演習	2	30	2	前期	高浜 快斗			
メディア表現と情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
			メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		教養
	40571		情報コミュニケーション	4	60	1・2	前期	伊豆田義人	連続2時限の授業をもって1回の授業となる	教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人		教養
	40590		データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
			プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子			
40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養	
基礎ゼミ	40710		基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵	開講せず	
	40720		基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
	40730		基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
	40740		基礎ゼミ四	2	30	1	後期	鈴木 久美		
	40750		基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
	40760		基礎ゼミ六	2	30	1	後期	—		
	40770		基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門ゼミ			専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵		
			専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
			専門ゼミ四	4	60	2	通年	鈴木 久美		
			専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
			専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
			専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
			専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
			専門ゼミ九	4	60	2	通年	比留間浩介		
		卒業研究	②		2					

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位

社会情報学科専門科目（令和2年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要	開放
基礎 科目			行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			情報社会論	②	30	1	後期	眞田 英毅		教養
			ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
			統計学入門	②	30	1	後期	鈴木 久美		教養
人間 社会と 心理	40120		社会学	2	30	1	前期	庄司 貴俊	[日]と合同 前期開講（8～9月）	教養
			社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40140		社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵	教養	
			社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦	教養	
			集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦	教養	
	40190		社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦	教養	
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養	
40210		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅			
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	鈴木 久美		教養
	40330		ファイナンス演習	2	30	2	前期	鈴木 久美		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	平野 智久	連続2時限の受講をもって1回の 授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	高浜 快斗		教養
	40380		経営情報論	2	30	1・2	後期	高浜 快斗		
			企業経営論	2	30	1	後期	高浜 快斗		
	40400		経営情報演習	2	30	2	前期	高浜 快斗		
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同 「視覚文化論」で読替	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40530		コミュニケーションデザイン論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40540		メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	教養	
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人	教養	
	40571		情報コミュニケーション	4	60	1・2	前期	伊豆田義人	連続2時限の授業をもって1回の 授業となる	教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人	教養	
			データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
	40613		プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
	40614		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子		
40620		I T概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養	
基礎 ゼミ			基礎ゼミ一	2	30	1	後期	—	開講せず	
			基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
			基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
			基礎ゼミ四	2	30	1	後期	鈴木 久美		
			基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期	—	開講せず	
			基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
	専門 ゼミ	40810		専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵	
40820			専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
40830			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
40840			専門ゼミ四	4	60	2	通年	鈴木 久美		
40850			専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
40860			専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
40870			専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
40880			専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
40890			専門ゼミ九	4	60	2	通年	比留間浩介		
40910			卒業研究	②		2				

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位

講義科目名称：行動科学概論（40010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 行動科学の実証的研究法について理解する。 2. スタディスキル（大学での勉強の仕方）を身につける。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 行動科学とは何か</p> <p>第3回 文献を探そう</p> <p>第4回 レポートを書こう</p> <p>第5回 発表しよう</p> <p>第6回 条件付け</p> <p>第7回 実証的研究法を知ろう</p> <p>第8回 統計ソフトを使ってみよう（Rの使い方）</p> <p>第9回 統計ソフトを使ってみよう（Rで統計分析）</p> <p>第10回 フィールドワークをしよう</p> <p>第11回 アンケートを書こう</p> <p>第12回 実験をしよう（記憶の実験）</p> <p>第13回 実験をしよう（Rで統計分析）</p> <p>第14回 研究計画を書こう（文献検索）</p> <p>第15回 研究計画を書こう（計画書の作成）</p>
授業概要	行動科学の考え方、特にデータを集め、仮説を立て、分析するといった実証的研究法に焦点を当てて講義を行う。また、文献の探し方やレポートの書き方といった「スタディスキル（大学での勉強の仕方）」についても説明する。期末レポート以外にも随時、Teamsを使って課題を出すので、作業をしながら実践的に学んでほしい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会科学や心理学の分野で卒業研究をまとめた人や、将来、編入先の大学や会社などで、実験やアンケート調査、商品テストなどに携わりたい人に、この科目は役立つと思います。なお、データの分析法についてさらに深く学びたい人は、「統計学入門」「社会調査演習」「データ分析入門」「情報処理演習Ⅱ」などの科目も履修するといいでしょ。
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：情報社会論（40020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	メディアと社会のありかたについて主要な論点を理解し、自分の考えを叙述・説明する。		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	ネットワーク化の来歴：メディアがつないできたもの	
	第3回	モバイル・デバイスの来歴：場所感覚の喪失と創出	
	第4回	コンテンツ・メディアの来歴：ソリッドなスター／リキッドなアイドル	
	第5回	メディアの来歴 レポート作成編	
	第6回	ソーシャル・メディアの功罪：SNS的つながりの実相	
	第7回	デジタル・コンテンツの功罪：データ化した音楽作品とその価値	
	第8回	ネット広告の功罪：監視社会と消費行動への自由	
	第9回	ユビキタス／ビッグデータの功罪：「わたし」という閉域、「みんな」の可視化	
	第10回	メディアの功罪 レポート作成	
	第11回	変わりゆくリアリティ：二項対立から多項対立の時代へ	
	第12回	変わりゆくコンテンツ：鑑賞からプレイへ	
	第13回	変わりゆくテクノロジー：分断された「わたし」からモバイルな社会へ	
	第14回	メディア社会の構想 レポート作成編	
	第15回	自由課題 レポート作成編	
授業概要	1. テキストを読解して内容を理解する。 2. テキストが提示する重要な論点について小論考を作成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	1時間程度		
テキスト	辻泉ほか編、2018、『メディア社会論』有斐閣ストゥディア（冊子版 1,980円＋税）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この科目ではテキストを丁寧に読むことと、そこでの議論を基にして自分なりと問いを立てることに時間をかけます。自分の考えをほかの人に伝えるように言語化する作法を学びましょう。		
評価方法	課題（100%）		
参考文献	辻泉ほか編著、2017、『デジタルメディアの社会学 第3版』北樹出版 富田英典ほか編著、2007、『デジタルメディア・トレーニング 情報化時代の社会学的思想法』有斐閣		
備考			

講義科目名称：ウェブデザイン入門（40031）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	授業の目的は、（ア）ホームページの記述言語htmlの基本を学習すること、（イ）htmlによるホームページの作成方法を習得すること、（ウ）実践的にウェブデザインの基本を理解すること、（エ）タイピング能力を向上させることである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。授業システムの解説 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 ブラインドタッチの基本</p> <p>第3回 タイピングの訓練</p> <p>第4回 ウェブページの仕組み</p> <p>第5回 html5の基礎</p> <p>第6回 html5の基本的なタグ</p> <p>第7回 css3の基本的な事項</p> <p>第8回 html5とcss3との関係</p> <p>第9回 html5とcss3による制作</p> <p>第10回 ウェブページの基本的な構造の作成</p> <p>第11回 レイアウト作成の基本</p> <p>第12回 様々なレイアウトの作成</p> <p>第13回 ホームページの作成例</p> <p>第14回 サイトのひな形の作成</p> <p>第15回 期末課題(プロジェクト)の説明</p>
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は放課後等の時間に与えられた長文を入力し、宿題として提出する。Htmlおよびcssの学習においては、授業での解説ならびに実習課題のほか、理論・概念への理解を深めるための宿題が毎回出される。期末には問題解決能力の向上を目的とした制作プロジェクトが与えられる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている実践的なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学習範囲が広く、かつ課題が多いので、宿題の時間を確保しておいてください。特に、上記の「時間外学習」において、事後学習の時間の大部分はタイピング課題の作成に充てることになるので、事前経験の多少によりそれ以上の時間が必要となります。
評価方法	入力課題：13回 x 4点 = 52点。※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=52点満点中0点』 授業課題：4回 x 4点 = 16点。 期末課題：32点。 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点 授業の進捗状況などの関係で評価方法が若干変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。

講義科目名称：統計学入門（40040）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日常的に触れるデータの特性を理解し、データから情報を読み取り判断できるようにする。 2. 簡単な統計分析ができるようにする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・統計学概説</p> <p>第2回 母集団と標本・社会調査</p> <p>第3回 記述統計①：度数分布表・ヒストグラム</p> <p>第4回 記述統計②：分布の中心をあらわす尺度</p> <p>第5回 記述統計③：分布の散らばりをあらわす尺度</p> <p>第6回 正規分布①：正規分布</p> <p>第7回 正規分布②：標準正規分布表の利用</p> <p>第8回 区間推定①：母分散が既知の場合の母平均の推定</p> <p>第9回 区間推定②：母分散が未知の場合の母平均の推定</p> <p>第10回 統計的仮説検定①：検定概要</p> <p>第11回 統計的仮説検定①：母分散が既知の場合の母平均に関する検定</p> <p>第12回 統計的仮説検定②：母分散が未知の場合の母平均に関する検定</p> <p>第13回 2種類のエラー</p> <p>第14回 散布図と相関係数</p> <p>第15回 総復習</p>
授業概要	講義を主体とし、学習した統計手法について適宜練習問題を解く。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：授業前に前回までの確認（用語の確認・概念の定着）を行ってください。 復習：授業で学習したことの確認・知識の定着を行ってください。場合によっては計算練習などが必要です。（数学が得意な方は復習の必要はないかもしれませんが、数学が苦手な方は毎回1時間～2時間程度）
テキスト	鳥居泰彦（1994）『はじめての統計学』，日本経済新聞出版社（2,233円＋税） 初回授業までにさわらび（購買）に入荷をお願いしておきますが、事前に受講者数がわからないため、例年を大きく上回る受講希望者があった場合は売切れる可能性があります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	初回の授業には必ず出席してください。 限られた時間で多くのことを学ぶので復習が必須です。 前回までの授業で行ったことを前提として進むので、理解していない（復習しない）と授業にまったくついていけなくなります。 電卓（ルートの計算機能必須）を利用します。
評価方法	期末試験（100％）
参考文献	数学が苦手な人用：小島寛之（2006）『完全独習 統計学入門』，ダイヤモンド社。 編入試験or編入後に統計が必要な人用：東京大学教養学部統計学教室編（1991）『統計学入門』，東京大学出版会。
備考	1回目の講義には必ず出席すること。

講義科目名称：社会学(社) (40110)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と考え方を理解し、自分の考えを叙述・説明する。		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	出生：妊娠や出産と「選択」 ほか 読解編	
	第3回	出生：妊娠や出産と「選択」 ほか レポート作成編	
	第4回	学ぶ／教える：なぜ教育が義務化されるのか ほか 読解編	
	第5回	学ぶ／教える：なぜ教育が義務化されるのか ほか レポート作成編	
	第6回	働く：働かなくてよいのが「良い社会」？ ほか 読解編	
	第7回	働く：働かなくてよいのが「良い社会」？ ほか レポート作成編	
	第8回	結婚・家族：「見合い婚」の不思議 ほか 読解編	
	第9回	結婚・家族：「見合い婚」の不思議 ほか レポート作成編	
	第10回	病い・老い：病むことはどのような経験か ほか 読解編	
	第11回	病い・老い：病むことはどのような経験か ほか レポート作成編	
	第12回	死：死のポルノグラフィ化 ほか 読解編	
	第13回	死：死のポルノグラフィ化 ほか レポート作成編	
	第14回	科学・学問：科学と社会はどのような関係にあるのか ほか 読解編	
	第15回	科学・学問：科学と社会はどのような関係にあるのか ほか レポート作成編	
授業概要	1. テキストを読解して内容を理解する。 2. テキストが提示する重要な論点について小論考を作成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	1時間程度		
テキスト	筒井淳也・前田泰樹著、2017、『社会学入門 社会とのかかわり方』有斐閣ストゥディア(冊子版 2000円＋税)		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	この科目ではテキストを丁寧に読むことと、そこでの議論を基にして「問い」を立てることに時間をかけます。自分の考えをほかの人に伝えるように言語化する作法を学びましょう。		
評価方法	課題(100%)		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会ネットワーク論（40120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
坂口 奈央			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常の何気ないこと、当たり前を疑い、なぜそうなるのか、社会に起きるあらゆる出来事に対し関心を持ち、用語を正しく理解したうえで、自分なりの明確な見解、問題意識をもち、それを言語化できるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 概要説明と自己紹介</p> <p>第2回 現代社会で今何が起きているのか（コロナ禍をもとに検討）</p> <p>第3回 断絶／連帯、差別／寛容</p> <p>第4回 グループディスカッション、発表</p> <p>第5回 レポート作成</p> <p>第6回 疫病と災害について考える</p> <p>第7回 人びとのつながりについて（疫病と災害）</p> <p>第8回 社会の脆弱性とは</p> <p>第9回 グループディスカッション、発表</p> <p>第10回 レポート作成</p> <p>第11回 レジリエンスと社会のあり方</p> <p>第12回 ソーシャルキャピタルは成り立つのか</p> <p>第13回 ポストコロナ時代を予測しよう</p> <p>第14回 グループディスカッション、発表</p> <p>第15回 レポート作成</p>
授業概要	最近取り上げられた新聞記事など社会問題を切り口とし、日本社会を巡るネットワークの現実と課題を取り上げる。また随時グループディスカッションを行う。
実務経験及び授業の内容	担当者は、元民放テレビ局員である。他者にどのように伝えるのか、どのようにしたら伝わるのかを体得してもらえよう、授業では頻繁に意見を述べる機会をつくる。また新聞など身近な社会問題を取り上げる記事や文章を読み、テーマ設定後、グループディスカッションを行う
時間外学習	新聞記事を読み、今の社会の流れを自分なりにとらえるトレーニングを日々積み重ねてください。
テキスト	指定テキストなし。資料は、授業中に配布する
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業内で感じた問題意識や自分ならどんな取り組み方をしたいか、見解をレポート並びに発表をしてもらえよう。また、随時発表や意見をのべてもらえよう。他者への説得力ある話し方を身につけられるように。なお、遅刻は認めません。
評価方法	授業内に3回実施する課題小レポート、授業内での発言内容
参考文献	
備考	

講義科目名称：地域社会学（40135）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	農村社会学の主要な用語と考え方を理解し、自分の考えを叙述・説明する。		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	農村空間とむらの文化 読解編	
	第3回	農村空間とむらの文化 レポート作成編	
	第4回	むらの変化	
	第5回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	
	第6回	中間まとめ：レポート発表1	
	第7回	開発と環境	
	第8回	農村女性・高齢者・山村	
	第9回	中間まとめ：レポート発表2	
	第10回	アジアの共同体	
	第11回	農村自治とむらづくり	
	第12回	中間まとめ：レポート発表3	
	第13回	新しい農村住民	
	第14回	自由課題：レポート発表4	
	第15回	自由課題：レポート発表5	
授業概要	1. テキストを読解して内容を理解する。 2. テキストが提示する内容を基に、具体例について知識を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	1時間程度		
テキスト	日本村落研究学会編、2007、『むらの社会を研究する フィールドからの発想』農山漁村文化協会。（定価2,305円） * 変更する可能性があるので初回に指示します		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			
評価方法	課題（100%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会調査演習（40140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	質的調査(インタビューや参与観察)を中心に、社会調査の手法を理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 質的調査とは何か</p> <p>第3回 フィールドワーク</p> <p>第4回 参与観察</p> <p>第5回 生活史</p> <p>第6回 課題の設定</p> <p>第7回 経過報告</p> <p>第8回 経過報告</p> <p>第9回 経過報告</p> <p>第10回 経過報告</p> <p>第11回 経過報告</p> <p>第12回 経過報告</p> <p>第13回 経過報告</p> <p>第14回 経過報告</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	1時間程度
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この科目では質的調査（インタビューや参与観察）を中心に扱います。2021年度は既存の若者調査のデータを「読み解く」ところから講義を始めます。
評価方法	課題（100%）
参考文献	岸政彦ほか、『質的社会調査の方法 他社の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア。 菅原和孝編、『フィールドワークへの挑戦 〈実践〉人類学入門』世界思想社。 山田奨治編著、『マンガ・アニメで論文・レポートを書く 「好き」を学問にする方法』ミネルヴァ書房。 藤田結子ほか編、『ファッションで社会学する』有斐閣。
備考	

講義科目名称：環境社会学（40150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	環境社会学の主要な用語と考え方を理解し、自分の考えを叙述・説明する。		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	生業の近代化とグローバル化 読解編	
	第3回	生業の近代化とグローバル化 レポート作成編	
	第4回	環境という風景とアイデンティティ	
	第5回	環境リスクと環境メディア	
	第6回	自然を基盤とする暮らしの「当たり前」	
	第7回	自然保護をめぐる葛藤	
	第8回	中間まとめ：レポート発表1	
	第9回	開発と廃棄	
	第10回	環境問題をめぐるローカルとグローバル	
	第11回	自然と社会をデザインする	
	第12回	持続可能なエネルギーを生かす	
	第13回	市民参加の意味を考える	
	第14回	環境問題の原点はいま	
	第15回	自由課題：レポート発表2	
授業概要	1. テキストを読解して内容を理解する。 2. テキストが提示する内容を基に、具体例について知識を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	1時間程度		
テキスト	関礼子ほか著、2009、『環境の社会学』有斐閣アルマ（1,900円＋税） * 変更する可能性があるので初回に指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキストの内容を基にして、具体例を探したり自分の考えをまとめて発表することを各回の課題として重視したいと思います。		
評価方法	課題（100%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会心理学（40170）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	印象形成	
	第3回	帰属	
	第4回	推論と問題解決	
	第5回	自己	
	第6回	性格と社会的性格（性格）	
	第7回	性格と社会的性格（社会的性格）	
	第8回	態度（態度の一貫性）	
	第9回	態度（認知的不協和）	
	第10回	説得（精査可能性モデル）	
	第11回	説得（効果的な説得とは）	
	第12回	ノンバーバル・コミュニケーション	
	第13回	同調（古典的研究と服従の心理）	
	第14回	同調（どんな時に同調するか）	
	第15回	役割	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、社会的認知、対人関係、集団内行動といった、主に個人の内部や対人間で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「心理学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、実験やアンケートを行って参加型の授業を目指します。後期の「集合行動論」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：集合行動論（40180）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	利他主義	
	第3回	リーダーシップと集団思考（リーダーシップの理論）	
	第4回	リーダーシップと集団思考（集団成極化現象）	
	第5回	映像でみる集団思考	
	第6回	犯罪心理学とプロファイリング	
	第7回	集団間差別と偏見（集団間葛藤）	
	第8回	集団間差別と偏見（社会的アイデンティティ理論）	
	第9回	交換理論	
	第10回	ゲーム理論と社会的ジレンマ	
	第11回	群集とパニック	
	第12回	流言とデマ	
	第13回	世論とマスコミ	
	第14回	文化	
	第15回	異文化間コミュニケーション	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、集団間行動、集合行動、文化といった、主に集団間や組織されない集団、社会で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「社会的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、実験やアンケートを行って参加型の授業を目指します。前期の「社会心理学」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会心理学演習（40190）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	カウンセリング体験を通して、自己理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	SGEとは	
	第3回	SGEエクササイズの紹介	
	第4回	教育ゲーム体験（クロスロード）	
	第5回	SGE体験	
	第6回	SGE体験	
	第7回	SGE体験	
	第8回	SGE体験	
	第9回	SGE体験	
	第10回	SGE体験	
	第11回	SGE体験	
	第12回	SGE体験	
	第13回	SGE体験	
	第14回	SGE体験	
	第15回	ふりかえり	
授業概要	SGE（構成的グループエンカウンター）について学ぶ。その後、SGE体験を通して理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>カウンセリングに興味のある学生や、ピアヘルパーの有資格者および資格取得を希望する学生を歓迎します。毎回出席を取りますので、できるだけ休まないようにしてください。就職活動や教育実習などで休む場合は事前に連絡してください。</p> <p>今年度は、SGEエクササイズを新型コロナウイルス流行下でも実施可能な内容にリメイクしながら進めていきたいと思っておりますので、学生の皆さんも知恵を貸してください。</p>		
評価方法	授業への参加度（70%）、提出課題など（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：政治心理学（40200）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	民主主義（これまでの変遷）	
	第3回	民主主義（今日の課題）	
	第4回	政策決定ゲームを作ろう	
	第5回	イデオロギー（これまでの変遷）	
	第6回	イデオロギー（新しい価値観）	
	第7回	映像でみるイデオロギー（前編）	
	第8回	映像でみるイデオロギー（後編）	
	第9回	政党と政党支持	
	第10回	映像でみる選挙	
	第11回	政治的パーソナリティ	
	第12回	政治的社会化	
	第13回	テロリズム	
	第14回	映像でみるテロリズム（前編）	
	第15回	映像でみるテロリズム（前編）	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、政治学、政治過程論、政治心理学などに関する内容を取り上げます。また、学生に課題を出したり、ドキュメンタリーを見て考えてもらい、参加型の授業を目指します。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：認知心理学（40210）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 認知心理学への理解を深める。</p> <p>到達目標 認知心理学の基本用語（キーワード）の意味の概要を説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 心理学の領域における認知心理学の位置づけ（認知心理学とはどのような学問か）オリエンテーション</p> <p>第2回 心と脳（脳の仕組みと発達）</p> <p>第3回 知覚（見えるということ）</p> <p>第4回 記憶（記憶の貯蔵と処理）</p> <p>第5回 第1回から第4回までのまとめ</p> <p>第6回 概念（概念の階層構造）</p> <p>第7回 言語（言語の外在的意味と内在的意味）</p> <p>第8回 文書理解と知識（スキーマとスクリプト）</p> <p>第9回 問題解決（情報処理アプローチ）</p> <p>第10回 第6回から第9回までのまとめ</p> <p>第11回 思考（演繹、帰納、類推）</p> <p>第12回 メタ認知（学習者としての自立）</p> <p>第13回 意思決定（確からしさの判断）</p> <p>第14回 クリティカルシンキング（信じる心）</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	各授業ごとに、導入で内容理解に必要なキーワードを明確にします。さらに、展開でキーワードをふまえて解説を行い、終末でキーワードについて自分の言葉でまとめる時間を設定するようにします。
実務経験及び授業の内容	学校心理士として中学校で勤務した実務経験を生かして授業を行います。
時間外学習	定期的にレポートを課します。期日厳守で提出してください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	認知心理学は脳がどのように働いて人間の行動を決定しているのかを考察する学問でありコンピュータの発展を支えるように深化してきました。全15回の講義を通して少しずつ考えを積み重ねて、自分なりに気づくことを見つけ、認知心理学への理解を深めてほしいと思います。
評価方法	授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）80% レポート（知識定着・思考）20%
参考文献	
備考	

講義科目名称：経済学入門（40310）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常生活とミクロ経済学，マクロ経済学の概念の融合を目的とします。 新聞やテレビの経済ニュースを経済理論で説明できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス シラバス内容に関して詳しく説明します。 受講の際の注意について説明します。 対面授業～遠隔授業をいくつかの段階にわけて進め方について説明します。</p> <p>第2回 市場・需要・需要曲線</p> <p>第3回 需要曲線のシフト・消費者余剰・供給・供給曲線</p> <p>第4回 供給曲線・供給曲線のシフト・生産者余剰</p> <p>第5回 市場均衡・均衡の変化</p> <p>第6回 確認課題(1)・確認課題(1)の解答</p> <p>第7回 国際貿易</p> <p>第8回 GDP①：定義など</p> <p>第9回 GDP②：名目と実質・経済成長率</p> <p>第10回 国民所得の決定①：民間消費・投資・政府支出</p> <p>第11回 国民所得の決定②：均衡国民所得</p> <p>第12回 財政乗数・租税乗数</p> <p>第13回 開放経済</p> <p>第14回 確認課題(2)・確認課題(2)の解答</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	講義形式を主体とします。テーマごとに講義を受けた後、確認のために授業内課題を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：学習した概念を次回の講義で利用するので知識の定着をはかってください（必要時間：各自の理解度によるがおよそ30分～1時間程度）。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、積み上げていくタイプの科目なので毎回の講義をきちんと理解しないと次回の講義が理解できなくなる可能性があります。そのため、復習を厭わない方にお勧めします。 数学を利用します。
評価方法	【対面授業の場合】 期末テスト（80%）＋授業内課題（10%×2回） 【遠隔授業の場合】 授業課題，授業参加度（発言やノートなど），期末課題などで総合的に判断します。評価割合は遠隔授業期間によるため，第1回の授業で説明します。
参考文献	マンキュー『マンキュー 入門経済学』東洋経済新報社（3,200円＋税）
備考	遠隔授業の場合TeamsとTeamsのClassNoteBookを利用します。 ClassNoteBookへのアクセスに関しては，米短の公式発表に従ってください。 第1回目は履修制限しませんが，第2回目以降は履修登録した学生のみ限定いたします。

講義科目名称：ファイナンス論（40320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	将来価値・割引現在価値を利用した住宅ローンや年金等の計算ができるようになること・ポートフォリオの基礎を理解し、株価を計算できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 利子率・単利と複利</p> <p>第3回 将来価値と現在価値</p> <p>第4回 投資先の選択</p> <p>第5回 アニュイティ（住宅ローン）・確認課題①</p> <p>第6回 確認課題①の解答・通貨が異なる場合（外国為替）の将来価値と現在価値</p> <p>第7回 実質金利・インフレーションがある場合の将来価値と現在価値</p> <p>第8回 株取引ゲームのルール説明・戦略および戦術レポート レポートには意見交換も含まれます。</p> <p>第9回 株取引ゲーム・期待値</p> <p>第10回 分析レポート・株価の算定 レポートには意見交換も含まれます。</p> <p>第11回 リスクの算定</p> <p>第12回 ポートフォリオ（安全資産と危険資産）</p> <p>第13回 ポートフォリオの収益率とリスク</p> <p>第14回 ポートフォリオの投資機会軌跡（トレードオフ線）・確認課題②</p> <p>第15回 確認課題②の解説・まとめ</p>
授業概要	講義は、座学および経済学ゲーム（株取引）を利用した学習（アクティブラーニング）により構成されます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：講義で学習した知識の定着のため30分～1時間程度（個人の理解度による）。
テキスト	必要になった場合、講義内で指定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	将来設計を考えるうえで金銭の計算を抜きにすることはできません。楽しい老後のため、今から勉強しておきましょう。残念ながら、数学を利用します。
評価方法	期末試験60%、授業内課題2回（10%×2回）、株取引ゲーム（10%）およびそれに関する意見交換とレポート2回（5%×2回）
参考文献	ツヴォイ（2011）『現代ファイナンス論（第二版）』ピアソン
備考	第1回の講義には必ず出席してください。 電卓（ルート機能の付いたもの）が必要です。

講義科目名称：ファイナンス演習（40330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ファイナンス論で学習したトピックを実際の生活（投資）に応用できるようにすることを目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス シラバス内容の詳しい説明をします。 特に授業の進め方など説明するので必ず確認してください。	
	第2回	金融市場（資本市場）	
	第3回	株式と債券	
	第4回	チャートの読み方	
	第5回	四季報の読み方①：四季報とは	
	第6回	四季報の読み方②：材料記事・ROE・ROAなど	
	第7回	四季報の読み方③：財務状況・資本構成など	
	第8回	四季報の読み方④：株式分割など	
	第9回	日経平均・東証TOPIXなど	
	第10回	景気と投資先①：景気下降局面	
	第11回	景気と投資先②：景気上昇局面	
	第12回	投資結果報告	
	第13回	投資結果分析①	
	第14回	投資結果分析②	
	第15回	まとめ	
授業概要	ファイナンス論で学んだポートフォリオ理論の応用を講義前半で講義し、それを利用したコンピュータ演習（投資）を講義後半に行います。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	株式取引に必要な時間（デイトレーディングをする人は毎日30分以上、長期保有をする人は週1回10分程度）。株価に変動を与える要因についての知識吸収のため、ニュースや新聞を見るのに必要な時間。		
テキスト	必要に応じて授業内で紹介します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンス論でのポートフォリオの収益率とリスクの関係について理解できていることを前提に講義を行います。数学の予備知識があると講義の理解が容易になります。		
評価方法	最終的な投資結果（演習の成果）（100%）		
参考文献			
備考	第1回の講義には必ず出席してください。 就職活動等で出席できない場合は、授業時間前までにその旨メールにて連絡してください。 遠隔授業の場合は、Teams、ClassNoteBookを利用します。 TeamsやClassNoteBookへのアクセスに関しては、米短の公式発表に従ってください。 第1回は受講制限はしませんが、第2回目以降は履修登録した学生にのみ限定します。		

講義科目名称：簿記会計演習（40340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	4	選択必修
担当教員			
平野 智久			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	企業のさまざまな経済活動について、どのような会計処理がなされるかを検討します。日常的な記録から財務諸表の作成まで、講義と演習とを反復します。 効果的な修得には、日々の復習が大切なことは言を俟たない。日本語を的確に読み取れる、各種法律や現代社会の動向に関心がある、といった点も肝腎です。
授業計画	<p>第1回 ようこそ、簿記・会計学の世界へ！</p> <p>第2回 仕訳&転記に慣れよう！／現金預金も。</p> <p>第3回 会計の歴史から何がみえるか？</p> <p>第4回 商品を仕入れて、顧客へ売り渡そう！</p> <p>第5回 いろいろな債権・債務をもっと単純に！</p> <p>第6回 従業員さん、ありがとう！（仮）</p> <p>第7回 営業費用を総まとめ！（仮）</p> <p>第8回 8桁精算表から財務諸表を作ります！（仮）</p> <p>第9回 じっと俟つことで報酬を……？（仮）</p> <p>第10回 株式や公社債に投資しよう！（仮）</p> <p>第11回 会社の「もうけ」はどこへ……？（仮）</p> <p>第12回 資金が底を尽きそう……どうする？！（仮）</p> <p>第13回 伝票への記入を体験しましょう。</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 検定試験に向けて、総合問題に挑戦しましょう。</p>
授業概要	（1限）新たに学ぶ論点を講義します。（2限）問題演習によって理解の定着を図ります。令和2年度に作成した講義動画がYouTube上にありますので、Teamsで共有する予定です。問題演習に際しては、「どうしてこの仕訳となるのか」を意識すると効果的でしょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎週3－4時間の復習（問題演習）を繰り返すことで、少しずつ気づく何かがあるはずです。絶対的な学修時間や練習量が不足していると、点数は伸びません。
テキスト	平野智久[2019]『仕訳でかんがえる会計学入門』新世社。税抜1,850円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	初学者を対象としていますが、全商簿記2級以上を取得していても「気づき」の多い授業となっているはずです。連続2時限のため、1日の進度は速いです。欠席してしまった場合は、Teamsで共有する資料で追いついてください。「一夜漬け」では単位を修得できません。一緒に勉強する“ボキトモ”とともに学びを深め、今秋の日商簿記3級を目指しましょう！
評価方法	期末試験では、「財務諸表の作成」について出題する予定です。出欠の確認を兼ねた小テストを適宜おこないますが、期末試験の点数に加算して評価します。
参考文献	蛭川幹夫[2019]『日商簿記ゼミ3級問題演習（改訂版）』実教出版。税抜1,400円。
備考	

講義科目名称：電子商取引概論（40350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 電子商取引（EC），電子マネー，消費者としてECの効果的な活用方法とトラブル防止策を学んで，ECの基本教養を身につけてもらう。</p> <p>2. 事業者の視点から電子商店の開店方法と運営の基本知識を理解する。</p> <p>3. 電子商取引関連の法律に関する基本知識を勉強する。</p>
授業計画	<p>第1回 商取引と電子商取引</p> <p>第2回 電子商取引の特徴とインターネットビジネス</p> <p>第3回 電子決済と具体的な決済方法</p> <p>第4回 電子マネー，キャッシュレス決済とFinTech（フィンテック）</p> <p>第5回 電子商取引に関連する法律</p> <p>第6回 契約に関する基本知識と消費者契約法</p> <p>第7回 ネット物販業の基本とビジネスモデル</p> <p>第8回 情報提供仲介事業とそれらのビジネスモデル</p> <p>第9回 コンテンツ販売事業，金融業における電子商取引</p> <p>第10回 電子商店の始め方，ネットオークションとネットフリマの活用</p> <p>第11回 電子ショッピングモールへの出店方法と独立型ネットショップの構築</p> <p>第12回 電子商店運営の基本知識と基本運営指標</p> <p>第13回 電子商店のマーケティング</p> <p>第14回 EC関連の最新話題（レポート）</p> <p>第15回 総合演習（レポート）</p>
授業概要	<p>消費者と事業者の視点から電子商取引（EC）の基本知識，基本技術および効果的な活用方法などを取り上げて講義する。インターネットの関連情報を活用し，様々な問題の答えを探求することも重視する。</p>
実務経験及び授業の内容	<p>担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発と電子商取引の導入に参加し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。</p>
時間外学習	<p>毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。</p>
テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。</p>
評価方法	<p>毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。</p>
参考文献	<p>1. 丸山正博：「電子商取引の進展—ネット通販とeビジネス」，八千代出版（2011）。</p> <p>2. 竹内謙礼：「成功者しか知らない ネットショップ運営 儲かる秘訣が2時間でわかる本」，双葉社（2004）。</p> <p>3. 二木紘三：「Eコマースのしくみ」，日本文芸社（2000）。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 一般利用者としての必要最低限な情報セキュリティ知識を身につけてもらう。 2. ネットワークにおける各種の危険性と脅威を理解のうえ、基本的な対策を習得する。 3. 情報セキュリティ関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 インターネットとその危険性</p> <p>第2回 情報セキュリティの定義：機密性，完全性，可用性とその他の特性</p> <p>第3回 盗聴の脅威とその対策，暗号化技術の基本知識</p> <p>第4回 侵入・なりすましの脅威と対策</p> <p>第5回 改ざん・破壊の脅威と対策</p> <p>第6回 マルウェア・ウィルスの脅威：基本知識，感染兆候と経路</p> <p>第7回 マルウェア・ウィルス感染防止と駆除対策</p> <p>第8回 情報セキュリティ関連法律のしくみと著作権法</p> <p>第9回 知的財産権と特許法・商標法，個人情報保護法</p> <p>第10回 コンピュータ犯罪防止法，不正アクセス禁止法と不当競争防止法</p> <p>第11回 クラウドサービスとセキュリティ</p> <p>第12回 SNSとセキュリティ</p> <p>第13回 スマートフォンのセキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティの最新話題</p> <p>第15回 総合演習とレポート</p>
授業概要	情報の盗聴，侵入，破壊とマルウェア・ウィルス感染などの様々な脅威から身を守るための基本知識，基本対策について講義する。インターネットの情報を活用して問題を解決する能力の養成も重視する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発とWebサーバーの設置・運営を担当し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 中村行宏：「情報セキュリティの基礎知識」，技術評論社(2017)。 2. 情報処理推進機構：「情報セキュリティ読本 五訂版：IT時代の危機管理入門」，実教出版(2018)。 3. 岩井博樹：「動かして学ぶセキュリティ入門講座」，SBクリエイティブ(2017)。
備考	

講義科目名称：経営学入門（40370）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経営学の基礎的な概念について学修し、実社会で生きていくためのキャリアデザインを描けるようになる、マネジメントの仕組みについて理解できる、という2点の能力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 企業経営の全体像：企業とはどのような存在なのか</p> <p>第2回 経営学の全体像：経営学は金儲けの学問なのか</p> <p>第3回 企業と社会：企業形態と株式会社</p> <p>第4回 企業とインプット市場との関わり</p> <p>第5回 企業とアウトプット市場との関わり</p> <p>第6回 競争戦略のマネジメントPart.1：「選ばれる」を作るプロセス</p> <p>第7回 競争戦略のマネジメントPart.2：勝つ企業のパターンとは</p> <p>第8回 多角化戦略のマネジメント：事業の範囲拡大、単一から複数へ</p> <p>第9回 国際化のマネジメント：企業活動の地理的な拡がり</p> <p>第10回 マクロ組織のマネジメント：組織構造のバリエーション</p> <p>第11回 ミクロ組織のマネジメント：働く人をやる気にさせるためには</p> <p>第12回 キャリアデザイン：人生とキャリアのデザイン</p> <p>第13回 ファミリービジネスのマネジメント：創業者一族による経営</p> <p>第14回 非営利組織のマネジメント：博物館や病院に経営は必要なのか</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ドキュメンタリー、ニュース、新聞等で本講義に関連するものがあれば、できるだけ閲覧すること。1回当たりの講義に対して、数時間程度の予復習をすることが望ましい。
テキスト	初回の講義で指定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく、いかに簡単に捉えることができるか、という視点を身に付けていきましょう。本講義は、「ITパスポート」資格試験の出題範囲（ストラテジ系）を含みます。
評価方法	試験（80％）、小テスト（10％）、授業への取り組み（10％）
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞出版社。 加護野忠男・吉村典久編（2012）『1からの経営学（第2版）』碩学社。 経営能力開発センター編（2015）『経営学検定試験公式テキスト①経営学の基本』中央経済社。 高橋京介（2020）『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ。
備考	

講義科目名称：経営情報論（40380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経営情報論の基礎的・応用的な概念について学修し、健全な情報社会の発展に参画できる能力を身に付ける。		
授業計画	第1回	経営情報論の基礎：経営情報システムという考え方	
	第2回	経営情報論の基礎理論：システム概念とネットワーク概念	
	第3回	経営情報システムの変遷：経営情報システム関連概念の系統的な整理	
	第4回	復習①：第1～3回の範囲を理解する	
	第5回	情報通信技術の進展：有効で効率的なビジネス活動を可能にする要因	
	第6回	経営情報システムの設計と開発：経営情報システムの設計・開発論の検討	
	第7回	経営情報システムの管理：経営情報システムの管理運営やリスク管理	
	第8回	復習②：第5～7回の範囲を理解する	
	第9回	情報通信技術とビジネス・プロセス革新：ビジネス・プロセス革新との関連性	
	第10回	ネット・ビジネス：現代経済を牽引するネット・ビジネスの諸相	
	第11回	情報通信技術と組織変革：組織の構造的側面からの検討	
	第12回	復習③：第9～11回の範囲を理解する	
	第13回	情報通信技術と組織コミュニケーション：電子メディアや知識創造への考察	
	第14回	情報通信技術と社会：情報行動の社会的影響と企業の対応	
	第15回	総括：まとめと今後の展望	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。復習回では、議論や練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。		
テキスト	遠山暁・村田潔・岸真理子（2015）『経営情報論（新版補訂）』有斐閣。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「経営情報論」とは、どのようなものなのでしょうか。意見交換や課題への取り組みを通じて、一緒に考えてみましょう。		
評価方法	試験（90%）、授業への取り組み（10%）		
参考文献	高橋京介（2020）『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ。		
備考	シラバスの内容については、変更になる場合がある。		

講義科目名称：企業経営論（40391）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	企業という対象に関する基礎的な概念について学修し、複雑かつ多面的な現代社会を見る視点を身に付ける。		
授業計画	第1回	現代社会を見る視点：歴史的概観と6つの企業観	
	第2回	豊かな社会と企業の成長Ⅰ：大企業の実態と企業の長期戦略	
	第3回	豊かな社会と企業の成長Ⅱ：大企業と消費者、企業と国家	
	第4回	復習と議論①：財・サービスの提供機関としての企業	
	第5回	株式会社制度の理論と現実Ⅰ：株式会社の機能と構造	
	第6回	株式会社制度の理論と現実Ⅱ：株式会社における制度と実態の乖離	
	第7回	復習と議論②：株式会社としての企業	
	第8回	企業の変容と新しい企業観の登場Ⅰ：大企業の支配構造、性格と機能	
	第9回	企業の変容と新しい企業観の登場Ⅱ：大企業のコーポレート・ガバナンス	
	第10回	復習と議論③：大企業としての企業	
	第11回	組織と管理Ⅰ：企業組織の諸形態、環境変化への適応と変革	
	第12回	組織と管理Ⅱ：管理論の展開	
	第13回	復習と議論④：組織としての企業	
	第14回	総括Ⅰ	
	第15回	総括Ⅱ	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。復習回では、議論や練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。		
テキスト	資料を適宜配布する形式。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	企業経営論は、現代社会の理解に必要不可欠な企業を対象とする学問です。本講義の受講を通じて、企業について経済的・組織的・制度的に理解し、現代社会に求められる知識を修得しましょう。		
評価方法	試験（90%）、授業への取り組み（10%）		
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社。		
備考	シラバスの内容については、変更になる場合がある。		

講義科目名称：経営情報演習（40400）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	Excelを使用してビジネスの現場で求められる基本的なデータ加工について学修し、効率的・効果的に業務遂行することができるスキルを身に付けます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 計算：売上日報、支店別売上実績表、交通費精算書</p> <p>第3回 計算：時間帯別客単価、仕入予定表</p> <p>第4回 集計：在庫棚卸表、販売店別機種別売上表</p> <p>第5回 集計：売上成績比較、顧客別売上集計表、全店経費集計表</p> <p>第6回 集計：研修会申込記録、アンケート集計</p> <p>第7回 復習と応用①：計算と集計を理解する</p> <p>第8回 グラフ作成：事業別売上高推移</p> <p>第9回 グラフ作成：商品別問合せ件数推移、社員構成比率</p> <p>第10回 復習と応用②：グラフ作成を理解する</p> <p>第11回 データベース：社員名簿</p> <p>第12回 データベース：宿泊施設一覧、売上台帳</p> <p>第13回 復習と応用③：データベースを理解する</p> <p>第14回 文書作成：見積書、請求書</p> <p>第15回 復習と応用④：文書作成を理解する</p>
授業概要	研修で用いられるレベルの練習問題に取り組む。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	知識定着のため、各回につき1時間程度の復習が望ましい。
テキスト	資料を適宜配布する形式。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Excelは失敗しても「元に戻す」でやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで、誰でもできるようになります。できた！を積み重ねて、成功することや達成することの喜びを感じつつ、知識を修得していきましょう。
評価方法	課題提出（100%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディア文化論（40511）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	授業の開放科目※	※社会人男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. メディアの発展について歴史的側面から概観し、研究に必要な方法論を習得する。 2. 現代社会においてメディアが有している文化的・社会的意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 「メディア」とは何か メディア論の射程</p> <p>第2回 メディアの歴史と「メディア史観」</p> <p>第3回 記号とコミュニケーション</p> <p>第4回 メディアの作用</p> <p>第5回 言語コミュニケーション／非言語コミュニケーション</p> <p>第6回 メディア・アイデンティティ・身体</p> <p>第7回 コミュニケーション様式の変化とメディアのデジタル転回</p> <p>第8回 マスコミュニケーションと日常のグローバル化</p> <p>第9回 メディアと公共圏</p> <p>第10回 監視と権力</p> <p>第11回 現代資本主義と文化産業</p> <p>第12回 欲望と流行のメディア／交換と贈与の体系</p> <p>第13回 視覚文化と表象</p> <p>第14回 コンテンツ分析の方法論</p> <p>第15回 インターメディア／オルタナティブ・メディア</p>
授業概要	メディア論／記号論／映像理論といったメディアをめぐる諸理論を概観し、かつそれらの諸観点に基づいて、メディアとその発展史ならびに文化的特性について分析的に講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を求めます。授業中に案内しますが、普段から良質のドキュメンタリーや報道番組、あるいは映画・映像作品を視聴／鑑賞することを求めます。
テキスト	池田理知子・松本健太郎編著『メディア・コミュニケーション論』、ナカニシヤ出版、2010年、2200円（本体価格）、購入方法等については別途指示します。その他の資料については適宜プリント等配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題レポートを活用した質問・意見交換などを通じて、今日のメディア社会に課せられた諸問題について、皆さんが自分自身で「考える」力を身につけられるように工夫します。
評価方法	授業中の提出課題40%、期末レポート60%。
参考文献	
備考	※高大連携科目（高校生男女が受講する場合有）

講義科目名称：メディア表現論（40521）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	授業の開放科目※	※社会人男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. デジタル表現・制作の現場において必要とされる技術的知識を習得する。 2. メディア表現に関する理論と枠組みを表現史の観点から理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス デジタルデータの形式</p> <p>第2回 デザインの歴史</p> <p>第3回 メディア表現とデザイン</p> <p>第4回 文字の情報処理</p> <p>第5回 タイポグラフィとデザイン</p> <p>第6回 色彩の情報処理</p> <p>第7回 商業印刷における色彩表現</p> <p>第8回 色彩調和と配色の理論</p> <p>第9回 写真表現の歴史</p> <p>第10回 写真表現と理論</p> <p>第11回 (デジタル) 写真の原理</p> <p>第12回 デジタル動画とアニメーションの理論</p> <p>第13回 デジタル動画とアニメーションの実践</p> <p>第14回 デジタル音楽制作の理論</p> <p>第15回 デジタル音楽制作の実践</p>
授業概要	現代のデジタル表現技術に関して、その前提となる表現史、表現理論、ならびに制作の方法論を講義形式で概観します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	タイポグラフィ、色彩論、写真表現、デジタル動画／音楽のそれぞれの分野について、課題レポート／作品レビュー等の提出を求めます。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実作品の鑑賞や解説などを可能な限り混じえることで、技術的な知識と表現の歴史・技法の解説とが、受講生の皆さんの創作的意欲につながるような授業にします。
評価方法	授業での課題提出・小テスト70%、期末課題30%。
参考文献	
備考	※高大連携科目（高校生男女が受講する場合有）

講義科目名称：視覚文化論（40531）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を学び、実際に作品分析を行う。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガ／アニメと教育</p> <p>第3回 マンガ／アニメの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガ／アニメとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ／アニメの物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ／アニメ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガ／アニメと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガ／アニメの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ／アニメ研究における学際性</p>
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、さらに実際の作品分析をワークショップ形式で行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題40%、期末レポート60%。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	

講義科目名称：メディア制作演習（40540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. イラストレーション／ポスターデザイン／エディトリアルデザインの制作技術を習得する。 2. 単なる操作技術ではない、表現手段としての技能と方法論を理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ドローソフトによる描画（パス）</p> <p>第3回 ドローソフトによる描画（ブラシ）</p> <p>第4回 写真補正の実践と特殊効果</p> <p>第5回 テクスチャ素材の制作</p> <p>第6回 文字組みの方法論</p> <p>第7回 ロゴの制作</p> <p>第8回 レイアウトと構成</p> <p>第9回 フライヤーの制作（立案）</p> <p>第10回 フライヤーの制作（仕上げと講評）</p> <p>第11回 イラストレーションの技法</p> <p>第12回 イラストレーションの制作プロセス</p> <p>第13回 作品制作の構想案作成とプレゼンテーション</p> <p>第14回 最終課題作品の制作(1)（導入）</p> <p>第15回 最終課題作品の制作(2)（仕上げと講評）</p>
授業概要	<p>Adobe社のIllustrator・Photoshopを用いたデザインやアート表現を、制作を通して実践的に学びます。毎回の演習課題は実地の制作同様のスタイルで進めていきます。自ら考えて表現しようとする意志を要求する授業です。最終的に自由制作課題作品を1点提出してもらいます。</p> <p>本演習は1年次後期の「メディア表現論」を既履修であることを前提に行われますので、そのつもりで履修すること（詳細は「受講生へのメッセージ」欄を参照）。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>授業時間中に行うのは、原則としてソフトウェアの機能や操作、何ができるのか、ということの解説が主となりますので、授業で提示した課題については各自空き時間などに作業をしてもらうことになります。制作のための写真撮影やデジタル素材集め、スケッチ・レイアウト構成の下書きなどの準備作業も必要になります。</p>
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>後期の講義科目の「メディア表現論」の実践演習と捉えてください。「メディア表現論」の履修はカリキュラム上の必須条件ではありませんが、本演習は同講義で解説した知識が習得済であることを前提に行われます。「メディア表現論」の単位を習得せずに本演習を履修しようとする方は必ず事前に面談に来ること。あらかじめ修得しておくべき知識に不足がみられる場合には履修を認めないことになります。</p>
評価方法	演習課題の提出70%、最終課題作品（提出必須）30%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディアリテラシー（40550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	メディアの特徴や修辞法を学ぶことにより、メディアが伝えない物は何かを知り、物事を批評する力を身につける。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	私のメディア史	
	第3回	メディアは構成される	
	第4回	メディアがリアリティを作る	
	第5回	メディアの伝える価値観・商業主義	
	第6回	組写真・先輩の作品鑑賞	
	第7回	映像編集体験（ドローン映像）	
	第8回	映像編集体験（ドローン映像）	
	第9回	映像編集体験（ドローン映像）	
	第10回	映像編集体験（自由制作）	
	第11回	映像編集体験（自由制作）	
	第12回	映像編集体験（自由制作）	
	第13回	映像編集体験（自由制作）	
	第14回	映像編集体験（自由制作）	
	第15回	作品発表会	
授業概要	メディアリテラシーに関するトピックを取り上げて講義した後、実際にビデオ編集作業を行って「メディアは構成される」ことを理解する。素材撮影用のビデオカメラは本学備品を貸し出す。なお、編集したビデオ作品は提出してもらうので、授業時間外でも自主的に作業を進めるくらいの熱意ある学生を歓迎する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2年に一度、山形市で山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催されます。山形市の山形ビッグウイング内にある山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーでは、この映画祭の出展作品を無料で視聴することができます。関心のある学生は、是非見に行ってください。 なお、使用するiMacの台数に限りがあるため、新型コロナウイルスの感染状況によっては履修人数を18名までに制限することがあります（希望者多数の場合は抽選を行います）。		
評価方法	ビデオ作品（80％）、授業への参加度（20％）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：応用データ分析（40561）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」や「日商簿記3級検定試験」の範囲を網羅した授業での学習を踏まえ、「データ分析入門」と合わせて、本授業の目的は日商簿記2級で求められる知識と実践的なスキルの習得を到達目標とするが、この授業では「工業簿記」について学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス。工業簿記の基本的な事項 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	費目別計算－1	
	第3回	費目別計算－2	
	第4回	単純個別原価計算－1	
	第5回	単純個別原価計算－2	
	第6回	部門別個別原価	
	第7回	単純総合原価計算－1	
	第8回	単純総合原価計算－2	
	第9回	工程別総合原価計算	
	第10回	組別総合原価計算	
	第11回	等級別総合原価計算	
	第12回	標準原価計算	
	第13回	直接原価計算 1	
	第14回	直接原価計算 2－CVP分析	
	第15回	総合問題	
授業概要	「データ分析入門」をはじめ、「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」や「日商簿記3級検定試験」に合格していることなどを前提としながら「日商簿記2級検定試験」・工業簿記の範囲を網羅するので、主に「原価の計算」について学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では1時間の事前学習、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、実践的なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。		
テキスト	適宜プリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「データ分析」のほか、「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」などの受講、あるいは「日商簿記3級検定試験」に合格していることを前提とし、来る2月の日商簿記2級検定試験（商・工業簿記）を受験される方を念頭においているので、毎週多くの課題を提出してもらい形で短期集中型の授業を行います。		
評価方法	授業課題およびノートの点検：10回 x 5点 = 50点。 総合課題：2回 x 5点 = 10点。 期末試験：40点。 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点 授業の進捗状況などの関係で評価方法が若干変更となる場合もある		
参考文献	初回に紹介する。		
備考	(1) 「データ分析入門」のほか、「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」などの受講、あるいは		

	<p>「日商簿記3級検定試験」に合格していることが前提である。 (2) 「日商簿記検定2級検定試験」を受けられる受講生が対象である。</p> <p>【注意】《高大連携の高校生の皆さんの受講条件》(a)「データ分析入門」、「応用情報処理演習II」と「応用情報処理演習III」の授業が受講済みで、「優」以上の成績をおさめていること、(b)「日商簿記3級検定試験」あるいは「全商簿記2級以上」に合格していること、(c)「日商簿記2級検定試験」を受験することが前提なので、受験後の報告が必須。なお、受講申込の際に証明できるもののコピーを添付してください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）			講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、主にTOEIC向けの対策問題をこなすことにより言語能力の向上を目指す。目的は二つである。一つは、社会人に求められている英語コミュニケーション能力を身につけることである。もう一つは、外国語を学習することは自国語を探究することなので、自国語への理解を深めることである。
授業計画	<p>第1回</p> <p>1 限目：ガイダンス。Part 5（文法・語彙）（その1） 2 限目：Part 1（写真描写問題）（その1）</p> <p>第2回</p> <p>1 限目：Part 5（文法・語彙）（その2） 2 限目：Part 2（応答問題）（その1）</p> <p>第3回</p> <p>1 限目：Part 6 - 長文穴埋め型（その1） 2 限目：Part 2（応答問題）（その2）</p> <p>第4回</p> <p>1 限目：Part 6 - 長文穴埋め型 -（その2） 2 限目：Part 3（会話問題）（その1）</p> <p>第5回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・2問型 -（その1） 2 限目：Part 3（会話問題）（その2）</p> <p>第6回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・2問型 -（その2） 2 限目：Part 3（会話問題）（その3）</p> <p>第7回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・3問型 -（その1） 2 限目：Part 3（会話問題）（その4）</p> <p>第8回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・3問型 -（その2） 2 限目：Part 3（会話問題）（その5）</p> <p>第9回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・4問型 -（その1） 2 限目：Part 4（説明文問題）（その1）</p> <p>第10回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・4問型 -（その2） 2 限目：Part 4（説明文問題）（その2）</p> <p>第11回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 -（その1） 2 限目：Part 7 - Part 4（説明文問題）（その3）</p> <p>第12回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 -（その2） 2 限目：Part 4（説明文問題）（その4）</p> <p>第13回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 -（その3） 2 限目：リスニング総合問題1</p> <p>第14回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 -（その4） 2 限目：リスニング総合問題2</p> <p>第15回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 -（その5） 2 限目：リスニング総合問題3</p>
授業概要	ここではTOEICのリスニングとリーディングの問題を解きながら、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。毎回、解説やヒントがついている問題を授業で解いた後に、それらがついていない問題を解いて宿題として提出する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、9時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は135時間としている。ただし、この科目ではリスニングとリーディングスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	言語力を高めたい、コミュニケーション能力を向上させたい、検定を受けてみたい、社会に出たら必要になるかもしれないから勉強しておきたい等と思っている人を対象とした授業です。

評価方法	授業課題およびノートの点検：15回 x 4点 = 60点。 期末試験：40点。 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点 授業の進捗状況などの関係で評価方法が若干変更となる場合もある
参考文献	
備考	(1) TOEICまたは他の英語検定を受験される方を対象としている。 (2) 7月もしくは8月の受験をするという前提で授業を進める。

講義科目名称：データ分析入門（40581）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」や「日商簿記3級検定試験」の範囲を網羅した授業での学習を踏まえ、本授業の目的は「日商簿記2級検定試験」（商業簿記）のレベルを到達目標としている。また、「応用データ分析」と合わせて、「日商簿記2級検定試験」で求められる知識と実践的なスキルの習得を目指している。
授業計画	<p>第1回 簿記一巡の手続きの復習、損益計算書と貸借対照表の形式 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 記帳方法、費用・収益の認識基準</p> <p>第3回 税効果会計</p> <p>第4回 当座預金・銀行勘定調整表・約束手形・電子記録債権</p> <p>第5回 引当金・税金</p> <p>第6回 有形固定資産</p> <p>第7回 リース取引・無形固定資産・研究開発費</p> <p>第8回 外貨建取引</p> <p>第9回 有価証券</p> <p>第10回 株式の処理</p> <p>第11回 本支店会計1</p> <p>第12回 本支店会計2</p> <p>第13回 合併・事業譲渡・連結会計1</p> <p>第14回 連結会計2</p> <p>第15回 連結会計3</p>
授業概要	「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」を受講していること、あるいは「日商簿記3級検定試験」に合格していることなどを前提としながら「日商簿記2級検定試験」・商業簿記の範囲を網羅する。簿記3級と共通な部分の解説は割愛して、短期集中型的に簿記2級の論点にのみ着目するので、税効果会計や外貨建取引、株式の処理、本支店会計、連結会計を中心に学習する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では1時間の事前学習、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、実践的なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」の事前学習、あるいは「日商簿記3級検定試験」を受験していることなどを前提としながら、来る2月の「日商簿記2級検定試験（商・工業簿記）」を受験される方のための授業となります。簿記3級・商業簿記の範囲を割愛して、「日商簿記2級検定試験」特有の範囲に着目して短期集中的にその要領を網羅します。なお、日商簿記2級検定試験・工業簿記の範囲は後期の「応用データ分析」で学習します。
評価方法	<p>授業課題およびノートの点検：10回 x 5点 = 50点。 総合課題：2回 x 5点 = 10点。 期末試験：40点。 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点 授業の進捗状況などの関係で評価方法が若干変更となる場合もある</p>

参考文献	初回に紹介する。
備考	<p>(1) 「応用情報処理演習II」・「応用情報処理演習III」の事前学習、あるいは「日商簿記3級検定試験」を受験していることなどが前提である。</p> <p>(2) 日商簿記検定2級検定試験を受けられる受講生が対象である。</p> <p>【注意】《高大連携の高校生の皆さんの受講条件》(a)「応用情報処理演習II」と「応用情報処理演習III」の授業が受講済みで、「優」以上の成績をおさめていること、(b)「日商簿記3級検定試験」あるいは「全商簿記2級以上」に合格していること、(c)「応用データ分析」の受講を予定していること。なお、受講申込の際に証明できるもののコピーを添付してください。</p>

講義科目名称：データベース概論（40590）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】企業で扱う顧客情報や商品情報など、ICT社会の根幹を担うデータベースの基礎的な事項を理解する。</p> <p>【到達目標】業務にて小規模なデータベースシステムを取り扱う場合を想定して、業務に必要なスキルを身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 前半(第2回から第5回)はデータベースに関する基礎知識について学ぶ。 後半(第6回から第15回)は前半で学んだ基礎知識をもとにデータベースの実習を行う。</p> <p>第2回 データとデータベース</p> <p>第3回 テーブルとその構造、主キーと外部キー</p> <p>第4回 リレーションシップ、データの正規化</p> <p>第5回 データの正規化</p> <p>第6回 テーブルの設計と作成、主キー設定 既習学習の内容確認および実習、課題 1</p> <p>第7回 テーブル設計、外部データのインポート 既習学習の内容確認および実習、課題 2</p> <p>第8回 主キーと外部キー、リレーションシップの作成 既習学習の内容確認および実習、課題 3</p> <p>第9回 クエリの作成 既習学習の内容確認および実習</p> <p>第10回 クエリによるレコードの抽出 既習学習の内容確認および実習</p> <p>第11回 クエリによるグループ化と集計 既習学習の内容確認および実習、課題 4</p> <p>第12回 フォームを活用したテーブルへのデータ登録 既習学習の内容確認および実習、課題 5</p> <p>第13回 レポートを活用した帳票とその設計 既習学習の内容確認および実習、課題 6</p> <p>第14回 レポートを活用した帳票とその設計 既習学習の内容確認および実習、課題 7</p> <p>第15回 まとめ 期末課題</p>
授業概要	データベースは難しい概念があるため、講義とともに、実際にパソコンを使って実習を行い、基礎的な知識や技術の確実な定着を図ります。データベースシステムはMicrosoft Accessを使用します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしデータベース概論の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題の作成に取り組みます。
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	情報リテラシーの基礎は習得済みとして講義を行います。前期に開講される情報系科目は必ず履修してください。また授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。
評価方法	授業時課題(課題1～課題7)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする)を65%、期末課題の得点の合計点(各小問の配点の総合計を期末課題の満点とする)を35%とし、総合得点60点以上を合格とします。
参考文献	図書館にはデータベースに関連する書籍が多数所蔵されています。
備考	USBメモリと配布済み資料を毎回持参してください。USBメモリの取り扱いには十分留意してください。毎回出欠をとりまます。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。

講義科目名称：プログラミング 1 (40613)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】1. プログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成する</p>
授業計画	<p>第1回 プログラミング、開発環境について 本講義で使用するプログラミング言語はVisual Basic For Applicationを用います。</p> <p>第2回 計算と入出力：文字列の取り扱い</p> <p>第3回 計算と入出力：数値（整数）の取り扱い</p> <p>第4回 計算と入出力：数値（小数）の取り扱い</p> <p>第5回 処理の選択：If文 課題1</p> <p>第6回 処理の選択：If文による処理の多重分岐 課題2</p> <p>第7回 画面作成で使用するコントロールの取り扱い 課題3</p> <p>第8回 画面作成で使用するコントロールの取り扱い 課題4</p> <p>第9回 条件分岐処理：Select Case文 課題5</p> <p>第10回 繰り返し処理：Do While～Loop文 課題6</p> <p>第11回 繰り返し処理とワークシートの操作 課題7</p> <p>第12回 繰り返し処理：For～Next文 課題8</p> <p>第13回 配列</p> <p>第14回 動的配列</p> <p>第15回 まとめ 期末課題(問題1、問題2)</p>
授業概要	プログラムを作成することでコンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング1の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	授業中に資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	プログラム作成はトライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしいです。何事もトライ&エラーが大切です。授業の出席確認は呼名により行います。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。
評価方法	授業時課題(課題1～課題8)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする)を50%、授業で作成した例題プログラムの提出点の合計(作成した例題プログラムの総数×1点を例題プログラム提出点の満点とする)を15%、期末課題(問題1～問題2)の得点の合計点(各問題の配点の総合計を期末課題の満点とする)を35%とし、総合得点60点以上を合格とします。全ての課題プログラムは各課題における評価基準(ルーブリック)をもとに評価します。各課題の評価基準・配点・課題提出締切日時を明記したルーブリックは事前に周知・公表します。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が多数所蔵されています。

備考	提出された課題プログラムに対するフィードバックはルーブリックに基づく採点実施直後に行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】 1. Webプログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成できる</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、HTML5の書式、HTMLのフォーム要素 本講義で使用するプログラミング言語はJavaScriptを用います。</p> <p>第2回 JavaScriptの基本的な記述方法</p> <p>第3回 変数とデータ型</p> <p>第4回 条件分岐：if命令 課題1</p> <p>第5回 処理の多重分岐：else if命令、switch命令 課題2</p> <p>第6回 繰り返し処理：while命令、do...while命令 課題3</p> <p>第7回 繰り返し処理：for命令、for...in命令 課題4</p> <p>第8回 関数の定義とその利用 課題5</p> <p>第9回 イベントの発生とその取り扱い方法 課題6</p> <p>第10回 JavaScriptからHTML要素を扱う 課題7</p> <p>第11回 タイマー処理の実現</p> <p>第12回 Canvas要素によるグラフィック操作</p> <p>第13回 Canvas要素によるグラフィック操作とアニメーション</p> <p>第14回 Canvas要素によるアニメーション</p> <p>第15回 Canvas要素によるアニメーション、まとめ 期末課題(問題1、問題2)</p>
授業概要	プログラムを作成することで、コンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング2の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	プログラム作成は一度で全てが上手くいくことはなく、トライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしいです。何事もトライ&エラーが大事です。また授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。毎回出欠をとります。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。
評価方法	授業時課題(課題1～課題7)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする)を50%、動作確認を行った例題プログラム提出点の合計(2点×15回=30点満点)を15%、期末課題(問題1、問題2)の得点の合計点(各問題の配点の総合計を期末課題の満点とする)を35%とし、総合得点60点以上を合格とします。全ての課題プログラムは各課題における評価基準(ルーブリック)をもとに評価します。各課題の評価基準・配点・課題提出締切日時を明記したルーブリックは事前に周知・公表します。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が所蔵されています。
備考	提出された課題プログラムに対するフィードバックはルーブリックに基づく採点実施直後に行います。

講義科目名称： I T概論 (40620)

授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ネットワーク、セキュリティなどIT技術に関する基本的な考え方や特徴などを学ぶ。 【到達目標】IT技術やPCの仕組みなどについての知識や技術を説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マルチメディア</p> <p>第3回 コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論</p> <p>第4回 コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論</p> <p>第5回 集合と論理演算、文字の表現</p> <p>第6回 アルゴリズムとプログラミング</p> <p>第7回 コンピュータ構成要素</p> <p>第8回 システム構成要素</p> <p>第9回 システムの信頼性</p> <p>第10回 オペレーティングシステム、ソフトウェア</p> <p>第11回 ネットワークの形態とプロトコル</p> <p>第12回 インターネットの仕組みとそのサービス</p> <p>第13回 情報セキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティ対策</p> <p>第15回 暗号化技術</p>
授業概要	昨今のICT社会を反映して通常のパソコン操作はできるものの、トラブルには対応できないなどの不安を持つ者も多い。これは知識や技術の不足が主な原因であるため、講義ではこのコア知識を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしIT概論の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。【事後学修】として配布資料や参考文献などをいま一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理してください。(所要時間：各回2～4時間程度)
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	口頭で説明した内容が重要な内容である場合も多いため、配布資料にマーキングを行う、ノートやメモを取るなどをして講義内容を頭で考え理解するように努めることが重要です。
評価方法	期末試験の点数(100点満点)を100%とし、期末試験の得点60点以上を合格とします。期末試験の受験は授業回数の2/3以上の出席が受験資格の条件とします。期末試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。期末試験は25問出題し、1問4点×25問=100点満点とします。
参考文献	IT技術に関する書籍やITパスポート試験に関するテキストは図書館などに数多く所蔵されています。例えばITパスポート試験に関するテキストでは、FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」2200円(税別)があります。
備考	配布済み資料を毎回持参してください。毎回出欠をとります。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。

講義科目名称：基礎ゼミ一（40710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 文献購読を基にした資料作成や課題発表を通じて、文章要約と発表の作法を習得する。 2. 関連する社会事象へ関心を広げる。
授業計画	第1回 課題の決定・選択 第2回 実施報告1 第3回 実施報告2 第4回 実施報告3 第5回 実施報告4 第6回 実施報告5 第7回 実施報告6 第8回 実施報告7 第9回 実施報告8 第10回 実施報告9 第11回 実施報告10 第12回 実施報告11 第13回 実施報告12 第14回 全体報告会 第15回 個人レポート提出／総まとめ
授業概要	前半期は共通のテキストを基に輪読を行い、文献購読、資料作成、口頭発表の作法を学びます。後半期は、関心のあるテーマについて研究計画書を作成します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	1時間程度
テキスト	参考) 過去3年分のテキストは以下の通りです。 藤原辰司著『給食の歴史』。原田信男著『日本人は何を食べてきたか』。植田今日子著『存続の岐路に立つむら』。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	農山漁村と暮らしにかかわる内容や、聞き取り調査に関心を持つ学生を歓迎します。ガイダンス時に指示します。
評価方法	授業への参加度（50％）、課題（50％）
参考文献	
備考	

講義科目名称：基礎ゼミ二（40720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、専門ゼミでの研究に向けた基礎的な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	導入	
	第2回	導入	
	第3回	発表・演習	
	第4回	発表・演習	
	第5回	発表・演習	
	第6回	発表・演習	
	第7回	発表・演習	
	第8回	発表・演習	
	第9回	発表・演習	
	第10回	発表・演習	
	第11回	発表・演習	
	第12回	発表・演習	
	第13回	発表・演習	
	第14回	発表・演習	
	第15回	まとめ	
授業概要	社会心理学や政治学に関する文献を読んで、各回の担当者がレジュメにまとめて発表し、みんなで議論する。また、左記テーマに関連した演習を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	別途、教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	履修希望者は、どんな文献が読みたいか前もって考えておいてください。		
評価方法	授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：基礎ゼミ三（40730）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	経営に関する基礎的・専門的知識について全国レベルで資格認定する唯一の検定試験「経営学検定」の試験対策を通じて、実社会で生きていくために必要なマネジメント観を養います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 企業システム：企業と経営、企業・会社の概念と諸形態</p> <p>第3回 企業システム：所有・経営・支配と経営目的、コーポレート・ガバナンス</p> <p>第4回 復習①：第2・3回の範囲を理解する</p> <p>第5回 経営戦略：体系と理論、全社戦略</p> <p>第6回 経営戦略：事業戦略、機能別戦略</p> <p>第7回 復習②：第5・6回の範囲を理解する</p> <p>第8回 経営組織：基礎理論、組織の基本形態</p> <p>第9回 経営組織：企業組織の諸形態、制度・管理・文化</p> <p>第10回 復習③：第8・9回の範囲を理解する</p> <p>第11回 経営管理：経営管理の基礎理論</p> <p>第12回 経営管理：マネジメントの階層とプロセス</p> <p>第13回 経営管理：経営計画</p> <p>第14回 経営管理：コントロール</p> <p>第15回 復習④：第11・12・13・14回の範囲を理解する</p>
授業概要	文献購読の形式で、経営知識を身の回りの生活レベルで紐解きながら学んでいく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。
テキスト	経営能力開発センター編（2015）『経営学検定試験公式テキスト ①経営学の基本』中央経済社。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく、いかに簡単に捉えることができるか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）
参考文献	
備考	指定テキストを毎回持参してください。

講義科目名称：基礎ゼミ四（40740）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			

授業のテーマ及び到達目標	就職活動や編入活動に必要な論理的思考や経済学の基礎知識の習得を目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス ゼミ参加者の学習履歴・学習目的により変更する可能性があります。 第1回目のゼミの際に使用テキストなど相談します。 テキストを利用する場合は、輪読形式で行います。	
	第2回	一国の経営（マクロレベル）①テーマ：資金循環	
	第3回	一国の経営（マクロレベル）②テーマ：雇用と教育	
	第4回	一国の経営（マクロレベル）③テーマ：投資	
	第5回	一国の経営（マクロレベル）④テーマ：国富	
	第6回	開発経済①テーマ：資源	
	第7回	開発経済②テーマ：街の場所	
	第8回	開発経済③テーマ：街道建設	
	第9回	開発経済④テーマ：街の発展	
	第10回	開発経済⑤テーマ：港の利用	
	第11回	個別企業の経営①テーマ：初期資源（初期賦存）	
	第12回	個別企業の経営②テーマ：投資	
	第13回	個別企業の経営③テーマ：生産	
	第14回	個別企業の経営④販売	
	第15回	まとめ	
授業概要	設定されたテーマについて学生が考え、報告する形式をとります。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習：各テーマにつき、自分で必要な場合は事前に調査等を行ってください（必要時間は各自の検索能力等によるため異なるが30分～1時間程度）。 復習：必要はありません。		
テキスト	参加者の学習履歴に合わせたテキストをゼミ内で指定します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学の知識があると株価や為替、景気など、新聞や経済ニュースの理解が容易になります。また、論理的思考ができたり、報告に慣れていたりすると進路選択の幅が広がるはずで。		
評価方法	ディスカッションへの参加およびパフォーマンス100%。 無断欠席は1回につき10%のマイナス評価。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：基礎ゼミ五（40750）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 実際の作品分析を通して、記号論や映像論・写真論などの批評理論の基本的枠組を理解します。 2. 作品批評をプレゼンテーションとして発表し、かつコメントする能力を養います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 作品分析の方法論</p> <p>第3回 視覚文化研究の文献講読(1)</p> <p>第4回 作品鑑賞と分析(1)</p> <p>第5回 受講生による報告発表(1)</p> <p>第6回 視覚文化研究の文献講読(2)</p> <p>第7回 作品鑑賞と分析(2)</p> <p>第8回 受講生による報告発表(2)</p> <p>第9回 視覚文化研究の文献講読(3)</p> <p>第10回 作品鑑賞と分析(3)</p> <p>第11回 受講生による報告発表(3)</p> <p>第12回 視覚文化研究の文献講読(4)</p> <p>第13回 作品鑑賞と分析(4)</p> <p>第14回 受講生による報告発表(4)</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	基本的には文献講読を行なったうえで、2～3人の受講生による作品分析と報告発表を演習形式で行います。分析に必要な理論や概念を発表の合間に講義します。後半はテレビアニメシリーズをまとめて鑑賞・批評してもらう予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げている映画・映像作品に関連する作品を別途鑑賞することを求めます。また受講生の報告発表の内容に関連してその他参考作品を提示してもらうこともあります。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。取り上げる文献ならびに作品については受講生の興味・関心に応じて決定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品の「鑑賞」と作品の「批評」とはまったく似て非なるものです。感性的に与えられたものについて分析的に捉えて考察する「眼」を養っていただければと考えています。
評価方法	報告発表50%、期末レポート課題50%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：基礎ゼミ七（40770）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】生活に深く浸透したITや企業における経営についてのより深い学びを行います。そして、経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識しながら情報リテラシーを向上させる。 【到達目標】ITと経営に関する知識について説明することができる。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	システム要件定義、システム設計、プログラミング、システム開発における見積りの考え方 確認テスト1	
	第3回	テスト実施手順、テストの技法、単体テスト、結合テスト、システムテスト、テスト評価 確認テスト2	
	第4回	システム導入、システムの受け入れ、システム運用、システム保守 確認テスト3	
	第5回	ソフトウェア開発手法、ソフトウェア開発モデル、ソフトウェアにおける共通フレーム 確認テスト4	
	第6回	プロジェクトマネジメントの意義とその目的 確認テスト5	
	第7回	プロジェクトマネジメントのプロセス、プロジェクトマネジメントに必要な知識体系 確認テスト6	
	第8回	サービスマネジメントの意義とその目的、サービスマネジメントにおけるフレームワーク 確認テスト7	
	第9回	サービスレベル管理、サービス可用性管理 確認テスト8	
	第10回	サービスデスク 確認テスト9	
	第11回	ファシリティマネジメント 確認テスト10	
	第12回	システム監査の意義とその目的、システム監査のプロセス 確認テスト11	
	第13回	内部統制 確認テスト12	
	第14回	ITガバナンス 確認テスト13	
	第15回	まとめ 確認テスト14	
授業概要	経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識し、特にプロジェクトマネジメント、システム開発などIT管理（マネジメント系）に関する基礎知識をもとに、ITパスポート試験の公開問題にチャレンジしながら、ITと経営について深く学んでいく。		
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし基礎ゼミ七の運営を行う。		
時間外学習	【事前・事後学修】ITパスポート試験の合格に向けて、毎回指定した範囲の確認テストを実施する。テキストやノート等を参照しながらテスト範囲の内容の理解を深める。（所要時間：各回4時間程度）		
テキスト	FOM出版、「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」、FOM出版、2200円（税別）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「IT概論」・「経営学入門」は履修済み、かつ、学期末にITパスポート試験の受験を行うことをゼミ配属条件とする。		
評価方法	各回の確認テストの得点の合計点(各回の確認テストの配点の総合計を満点とする)を80%、平常点（積極的なゼミ参加度を重視）を20%とし、総合得点60点以上を合格とします。各回の確認テストの配点はテストにより異なります。		
参考文献	ITや経営に関するテキストが図書館に数多く所蔵されています。		
備考	教科書や配布済み資料のすべてを毎回必ず持参してください。		

講義科目名称：専門ゼミ一（40810）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究を実施するために必要な調査・制作と中間報告を通じて、知識・技術を習得する。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	卒業研究テーマの検討	
	第3回	卒業研究テーマの検討	
	第4回	卒業研究テーマの検討	
	第5回	経過報告	
	第6回	経過報告	
	第7回	経過報告	
	第8回	経過報告	
	第9回	経過報告	
	第10回	卒業研究のアウトライン検討	
	第11回	卒業研究のアウトライン検討	
	第12回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第13回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第14回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第15回	経過報告、夏季休暇における研究予定の検討	
	第16回	経過報告	
	第17回	経過報告	
	第18回	経過報告	
	第19回	経過報告	
	第20回	経過報告	
	第21回	結語パートの提出	
	第22回	初稿提出	
	第23回	修正点の指示・検討	
	第24回	経過報告	
	第25回	経過報告	

	第26回 経過報告
	第27回 経過報告
	第28回 最終稿提出、冊子版の印刷
	第29回 報告会
	第30回 報告会
授業概要	研究経過の報告を基本として、内容について議論をおこないます。 研究テーマは、受講生の希望を基に練り上げますが、農山漁村と暮らし・置賜地方に関連するテーマで調査（インタビューや参与観察）を行う学生が多い傾向があります。 社会学の用語や考え方をより集中的に学びたいという希望があれば以下の参考文献の読解もおこないます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各回1時間程度
テキスト	研究テーマに即して調達するので、不要です。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	授業への参加度（50%）、卒業研究課題（50%）
参考文献	友枝敏雄ほか編、2017、『社会学の力 最重要概念・命題集』有斐閣 長谷川公一ほか編、2019『社会学（New Liberal Arts Selection） 新版』有斐閣
備考	

講義科目名称：専門ゼミ二（40820）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、卒業研究の作成に必要な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	導入	
	第2回	卒論の書き方を知る	
	第3回	資料集め	
	第4回	統計処理の復習	
	第5回	研究計画書の作成	
	第6回	研究計画の発表と議論	
	第7回	研究計画の発表と議論	
	第8回	研究計画の発表と議論	
	第9回	研究計画の発表と議論	
	第10回	研究計画の発表と議論	
	第11回	研究計画の発表と議論	
	第12回	研究計画の発表と議論	
	第13回	研究計画の発表と議論	
	第14回	研究計画の発表と議論	
	第15回	研究計画の発表と議論	
	第16回	中間発表と個別指導	
	第17回	中間発表と個別指導	
	第18回	中間発表と個別指導	
	第19回	中間発表と個別指導	
	第20回	中間発表と個別指導	
	第21回	中間発表と個別指導	
	第22回	中間発表と個別指導	
	第23回	中間発表と個別指導	
	第24回	個別添削指導	
	第25回	個別添削指導	

	<p>第26回 個別添削指導</p> <p>第27回 個別添削指導</p> <p>第28回 論文集の作成</p> <p>第29回 論文集の作成</p> <p>第30回 論文集の作成</p>
授業概要	まず卒業研究の計画について、順番に各自発表してもらい、議論を行う。その後、中間発表と個別指導を行い、個別添削指導を経て、最後に論文集を作成する。各自の研究テーマは自由であるが、政治や社会心理、文化などについて問題意識を持つ学生を歓迎する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	なし。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	人間や社会に対する好奇心が旺盛で、締め切りまでに卒業論文を提出できる学生を歓迎します。
評価方法	授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ三（40830）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	組織を対象とした経営研究を通じて、経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論などから自らが選択した学問領域の理論や方法を学修し、実際にそれらの知識を運用するスキルを身に付ける。		
授業計画	第1回	ガイダンス：研究分野とリサーチサイト	
	第2回	リサーチクエスチョン：仮説発見と仮説検証、魅力と現実	
	第3回	リサーチクエスチョン：先行研究の調査方法	
	第4回	リサーチクエスチョンの報告に向けて	
	第5回	リサーチクエスチョンの報告と議論	
	第6回	アカデミックライティングの作法：概要と必要性	
	第7回	アカデミックライティングの作法：倫理観とペナルティ	
	第8回	アカデミックライティングの作法：模倣と新規性	
	第9回	個別指導	
	第10回	個別指導	
	第11回	個別指導	
	第12回	個別指導	
	第13回	個別指導	
	第14回	報告と議論	
	第15回	報告と議論	
	第16回	進捗状況の報告と計画の修正	
	第17回	個別指導	
	第18回	個別指導	
	第19回	個別指導	
	第20回	個別指導	
	第21回	個別指導	
	第22回	個別指導	
	第23回	個別指導	
	第24回	個別指導	
	第25回	個別指導	

	第26回 個別指導
	第27回 個別指導
	第28回 個別指導
	第29回 報告と議論：口頭試問
	第30回 報告と議論：口頭試問
授業概要	広く細分化された経営学術領域のうち、どの分野を自陣とするのか、その分野でどのような役割を担うのか、などの基本的研究姿勢について説明した後、個別に研究を進める形式。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	基本的に各自の自主性に委ねる。ドキュメンタリー、ニュース、新聞などで自身の研究に関連するものがあれば閲覧すること。
テキスト	各自の適性に合わせて指定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本ゼミは、学生ひとりひとりに適した研究テーマや研究手法を提案して指導する完全個別指導型です。時間で割り当てられた時間ではひとつの空間に集合して作業してもらいますが、各々の主たる作業は授業時間外でおこなってもらいます。
評価方法	卒業論文（80％）、提出課題（20％）
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ四（40840）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	自ら選択したテーマにつき卒業研究（論文）を仕上げることを目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	テーマ選択方法（卒業研究テーマになるものとならないものなど）	
	第3回	参考文献検索方法の習得・テーマ選択のための検索	
	第4回	卒業論文を作成できるテーマ選択	
	第5回	テーマ報告	
	第6回	マインドマップの描き方の説明	
	第7回	マインドマップ作成	
	第8回	作成したマインドマップのチェック	
	第9回	チェックを受けてマインドマップを修正する	
	第10回	マインドマップ完成・報告	
	第11回	論文用の文章の書き方（文語と口語の区別など）	
	第12回	論文構成とその例	
	第13回	テーマとマインドマップを元に章構成をする	
	第14回	章構成チェック・章構成の決定	
	第15回	夏休みの予定作成	
	第16回	夏休みの進捗状況報告	
	第17回	個別指導①先行研究の確認	
	第18回	個別指導②分析手法の確認	
	第19回	個別指導③第1節の提出（研究目的・研究背景・先行研究）	
	第20回	個別指導④第2節（またはそれ以上）の提出	
	第21回	初稿提出	
	第22回	修正指導①個別指導（ゼミの半分の学生対象）	
	第23回	修正指導②個別指導（ゼミの半分の学生対象）	
	第24回	報告用資料作成①PPTファイルの作り方・各自作業	
	第25回	報告用資料作成②各自作業およびチェック	

	<p>第26回 報告会①（ゼミの半分学生による発表）</p> <p>第27回 報告会②（ゼミの半分学生による発表）</p> <p>第28回 報告会での指摘の修正</p> <p>第29回 最終稿ファイルの提出・印刷</p> <p>第30回 卒業論文集の作成</p>
授業概要	論文作成のために必要な知識や技術の説明を受けた後、個別に作業を行っていただきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各回のテーマに従って月に1度報告のための作業をしていただきます。
テキスト	マインドマップの描き方および論文の書き方の書籍をゼミ内で指定します。 テキストは貸し出すので購入する必要はありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究では論文を提出していただきます（期限厳守）。 研究報告を定期的に行うことで、プレゼンの仕方も学習します。
評価方法	提出課題20%，報告20%，卒業論文（期限内提出）60%。 無断欠席は1回につき20%のマイナス評価。 締切に遅れた卒業論文の評価はゼロ（＝留年決定）。
参考文献	
備考	遠隔授業の場合は、Teams、ClassNoteBookを利用します。 米沢女子短期大学からの公式発表に従って、第1回の講義に参加すること。

講義科目名称：専門ゼミ五（40850）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. デジタルアート／メディアアート／サブカルチャーなどの分野の作品研究を通して現代の表現について理解する。 2. 作品研究によって得た知識を元に作品制作を行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	文献講読(A) (映像表現)	
	第3回	ワークショップ(A1)	
	第4回	ワークショップ(A2)	
	第5回	文献講読(B) (イラストレーション)	
	第6回	ワークショップ(B1)	
	第7回	ワークショップ(B2)	
	第8回	文献講読(C) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第9回	ワークショップ(C1)	
	第10回	ワークショップ(C2)	
	第11回	文献講読(D) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第12回	ワークショップ(D1)	
	第13回	ワークショップ(D2)	
	第14回	作品研究論文の構想発表(1)	
	第15回	夏季の課題と習作の構想・計画	
	第16回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(1)	
	第17回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(2)	
	第18回	作品研究に関するブックレビュー(1)	
	第19回	作品研究に関するブックレビュー(2)	
	第20回	作品研究論文の構想発表(2)	
	第21回	制作作品の構想発表	
	第22回	文献講読(E) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第23回	ワークショップ(E1)	
	第24回	ワークショップ(E2)	

	第25回	作品研究論文の経過報告(1)
	第26回	制作作品の経過報告(1)
	第27回	作品研究論文の経過報告(2)
	第28回	制作作品の経過報告(2)
	第29回	制作作品の提出と講評
	第30回	卒業制作作品展の準備、作品研究論文の提出
授業概要	<p>卒業研究として研究論文の執筆ならびに作品の制作を行います。映像作品制作やデジタル音楽制作、あるいはいわゆるサブカルチャー研究を活動範疇とし、研究と制作の両方を実践的に学びます。前期はメディア文化史に関する文献講読、ならびに情報デザインと表現技法についてのワークショップを行います。夏期休業中には各人の興味に応じた課題（写真500枚以上あるいはイラスト50枚以上、その他応相談）ならびに習作の提出を課します。後期には各人の卒業制作作品と研究論文について、定期的に報告発表をしてもらいながらその最終的な完成を目指します。</p> <p>「メディア文化論」「メディア表現論」「コミュニケーションデザイン論」のうち、少なくとも2科目を既履修であることが望ましいです。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	論文と制作のどちらを主にするかは受講生の志向次第ですが、研究室の機関誌を年数回発行しますので、誌上で批評・習作・エッセイ・レビューなどを恒常的に発表してもらうことになります。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品研究に関しては日頃からの作品鑑賞、作品制作に際しては日々の修練が求められます。またワークショップ形式での課題演習や集団制作などを頻繁に取り入れますので、デジタル加工技術の習得、主体性や創造性／想像力は勿論のこと、他の受講生との協調性・協働性も大きく問われます。	
評価方法	作品研究論文50%、制作作品50%。	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミ六（40860）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	問題の発掘と解決・取り組み方を身に着けること。卒業研究を行うことで研究の心構え、進め方等を身に着けること。		
授業計画	前期	① 【専門ゼミ】 ガイダンス (a) 前期の勉強会は受講生によるプレゼンで、後期には「データ分析」の勉強会を行う (b) 前期の勉強会では、配布の英語長文を学習し、1人2回程度のプレゼンを予定している。後期の勉強会では、卒業研究のデータ分析に必要な知識を学習する。	
	前期	② ～ ⑤ 【卒業研究】 (a) 卒業研究の進め方等の説明 ※以下は個別面談・対応方式で行う（週一回）	
	前期	⑥ ～ ⑫ 【専門ゼミ】 受講者のプレゼン 【卒業研究】 テーマの検討および決定	
	前期	⑬ ～ ⑮ 【卒業研究】 実地調査系の場合（例） ・資料の収集、調査の計画、予備調査の実施、本調査の検討等	
	後期	① 【卒業研究】 調査の実施	
	後期	② ～ ⑤ 【専門ゼミ】 統計処理ソフトRの紹介 【卒業研究】 ガイダンス	
	後期	⑥ ～ ⑩ 【卒業研究】 データの整理 【専門ゼミ】 多変量分析への理解を深める	
	後期	⑪ ～ ⑮ 【卒業研究】 データの分析 【専門ゼミ】 データのまとめ方、論文の執筆に必要なソフトの学習	
		【卒業研究】 論文執筆	
授業概要	【専門ゼミ】と【卒業研究】は異なった科目ではあるが、これらはセットになっていて、両方を履修することになる。このゼミでは次のように分けている。 ●【専門ゼミ】（4単位）勉強会。テーマは英語または簿記である。 ●【卒業研究】（2単位）卒業研究テーマを決めて進める。基本的な流れは研究調査、データ収集、分析、と論文執筆である		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、技術・スキルの習得を目的としてい		

	るのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミの活動は、時間割のコマの時間に限りません。検定は、勉強会の軸になっていますので、その対策には多くの時間が必要になります。また、卒業研究では、調査と論文執筆などを自主的に行わなければならない作業が多々あるので、タイトなスケジュールの人は、自身の予定等と相談をして時間を確保するようにすることになります。
評価方法	詳細はゼミ紹介のガイダンス時に提示するが、概ね次のように取り組みを評価の対象とする。 ●【専門ゼミ・前期】 英語長論文の勉強会：プレゼンおよび、訳文の課題（15回） ●【専門ゼミ・後期】 データ分析：定期課題（15回） ●【卒業研究】卒業研究の成果物（卒業論文）
参考文献	初回に紹介する。
備考	【専門ゼミ】と【卒業研究】の授業内容は連動しているが、科目と単位は異なる。

講義科目名称：専門ゼミ七（40870）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】情報・地理情報・空間情報に関するテーマに対して、自ら取り組み、考え、解決し、成果を出す。</p> <p>【到達目標】実社会において必要な「与えられた仕事に対して、主体的に取り組み、考え、解決し、結果を出す力」を活用できる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	卒業研究のテーマの選定	
	第3回	卒業研究のテーマの選定	
	第4回	卒業研究のテーマの選定	
	第5回	卒業研究テーマ報告会	
	第6回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第7回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第8回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第9回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第10回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第11回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第12回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第13回	研究テーマに基づき研究、調査等の遂行ならびに進捗状況の報告	
	第14回	全体報告会① これまでの研究の進捗状況の報告を行う	
	第15回	全体報告会② これまでの研究の進捗状況の報告を行う	
	第16回	全体報告会③ 夏休み中に実施した研究の進捗状況を報告する	
	第17回	全体報告会④ 夏休み中に実施した研究の進捗状況を報告する	
	第18回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第19回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第20回	卒業論文執筆、個別指導	
	第21回	卒業論文執筆、個別指導	
	第22回	卒業論文執筆、個別指導	
	第23回	卒業論文執筆、個別指導	
	第24回	卒業論文執筆、個別指導	

	第25回	卒業論文執筆、個別指導
	第26回	卒業論文執筆、個別指導
	第27回	卒業論文執筆、個別指導
	第28回	卒業論文執筆、個別指導
	第29回	卒業論文執筆、個別指導
	第30回	卒業論文提出 卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出。提出日時は厳守。
授業概要	情報・地理情報・空間情報を卒業研究のテーマとして取り扱う。各々が設定したテーマに基づいて卒業研究を進めていく。自分自身が立てた問いを卒業研究のテーマとしても構わない。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし専門ゼミ七の運営を行う。	
時間外学習	ゼミで学んだ内容を深く理解するには時間外学習が不可欠である。【事前・事後学修】として文献研究や報告会発表用のスライド資料の作成準備などを自主的に進めておくことはもちろんのこと、ゼミや卒業研究で必要な各種成果物の作成は指定された期日までに取り組み提出することが挙げられる。	
テキスト	石井一成「ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方」, ナツメ社, 1,100円＋税 野田直人「小論文・レポートの書き方 パラグラフ・ライティングとアウトラインを鍛える演習帳」, 人の森, 900円＋税などは一読しておくこと。また、必要な資料は適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究のテーマに積極的かつ主体的に取り組む必要がある。卒業研究は計画的に進めてほしい。各自で研究を計画的に進め、卒業研究の進捗状況を定期的に報告してほしい。また教員を含むゼミ所属メンバーへの報告・連絡・相談を徹底してほしい。	
評価方法	進捗状況の報告や全体報告会での報告を50%、卒業研究に関わる成果物など(卒業論文、報告会での報告資料、その他指定された成果物)を50%として評価する。卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出締め切り日時は厳守。	
参考文献		
備考	過去に専門ゼミ七に在籍していたゼミ生の卒業研究をC号館1階に掲示している。	

講義科目名称：専門ゼミⅧ(40880)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	授業テーマ 学習者としての自立を目指す。 到達目標 卒業論文の作成の過程において、 人と関わる力や自己表現力及び主体性、論理性、計画性を身につけようとする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（論文作成の基本とゼミの進め方）</p> <p>第2回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第3回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第4回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第5回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第6回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第7回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第8回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第9回 研究テーマの吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第10回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第11回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第12回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第13回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第14回 研究計画作成と個別指導（研究計画完成の期限）</p> <p>第15回 夏休み前の発表会と意見交換（研究計画の発表会）</p> <p>第16回 夏休み後の発表会と意見交換（研究の進捗状況の発表会）</p> <p>第17回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第18回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第19回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第20回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第21回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第22回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第23回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第24回 卒業論文の作成と個別指導</p>

	第25回	卒業論文の作成と校正
	第26回	卒業論文の作成と校正
	第27回	卒業論文の作成と校正
	第28回	卒業論文の作成と校正（論文完成の期限）
	第29回	卒業論文の読み合わせと発表会
	第30回	卒業論文の読み合わせと発表会
授業概要	最初に論文を作成するための基本を確認します。その後、前期は研究計画についての一人一人の発表と議論を行い研究テーマを明確にしていきます。後期に入って、個別の助言を経て論文の完成に結びつけていきます。	
実務経験及び授業の内容	小・中学校及び高校での実務経験を生かして、より個性を尊重した授業にできればと考えています。	
時間外学習	授業はよりよい論文作りの議論が主となります。よって、実際の論文作成は時間外で行うことや、論文作成に必要な時間は少なくないことを理解してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配付します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	論文作成に当たっては、まず最初に自分の学びたいことや知りたいこと、他者に伝えたいことを明確にすることが大切です。そのことが意欲を高め、最終的に納得のいく論文の完成につながります。また、仲間と意見し合うことが研究テーマを明確にする側面もあります。ゼミの中でわからないことを相談し合うことのできる雰囲気を大切にしたいと思います。	
評価方法	課題解決への主体性と協働性（60%） 発表と提出課題の内容（40%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミ九（40890）

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究（論文）の作成に必要な知識やスキルを身に付ける。		
授業計画	第1回	研究の進め方	
	第2回	研究の進め方	
	第3回	研究の進め方	
	第4回	文献検索の方法	
	第5回	文献講読	
	第6回	文献講読	
	第7回	文献講読	
	第8回	文献講読	
	第9回	文献講読	
	第10回	文献講読	
	第11回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第12回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第13回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第14回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第15回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第16回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第17回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第18回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第19回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第20回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第21回	論文作成	
	第22回	論文作成	
	第23回	論文作成	
	第24回	論文作成	
	第25回	論文作成	

	第26回	論文作成
	第27回	論文作成
	第28回	論文作成
	第29回	論文作成
	第30回	論文作成
授業概要	スポーツの競技力向上や健康増進のための方法について、動作分析や実験を通して明らかにしていく。前期中に文献収集を通してテーマを決め、実験（または調査）、分析まで行う。後期は執筆作業を中心に進める。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	指定した文献や興味のある学術論文を探して読む。	
テキスト	各自のテーマに即した文献や資料を指示します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	スポーツや健康について興味があり、科学的な視点から追求してみたい学生を歓迎します。	
評価方法	卒業研究論文（70%）、授業への参加度（30%）	
参考文献		
備考		